

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	衣料品専門店 （総務担当）	単価の動き	・これまで客単価の下落幅が大きく、売上を押し下げる要因となっていたが、5月は客単価が前年同月並みで推移したことや買上客数増もあり、売上は前年比7.7%増加した。5月は天候に恵まれ、商店街の通行客も増加している。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・入場客数が前年比10%超の増加となった。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・今までも観光客はかなりの入込数であったが、ゴールデンウィークには、観光客が多く、ファミリー層を含めて県内の客も商店街に流れしてきた。売上がかなり上昇している店もあると聞く。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・外売上高は前年比97%であるが、店頭売上は前年比103%と好調で、全体では102.7%となっている。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・価格競争の激しさが一段落してきた。競合店のチラシ攻勢も落ち着いてきた。競合店のチラシの出る回数も減ってきて、周りの店も、売上が回復傾向にあると見込まれる。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数が下げ止まりつつあり、前年割れの度合いも少なくなっておりほぼ100%に近い。ゴールデンウィーク中は客数・客単価ともに前年を上回った。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・より高額なサービスについても興味を示す一般客が多くなった。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・天候の変動、寒暖の差が激しいため、人の出入りが少ない。
			一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き
		百貨店（営業担当）	それ以外	・前年同月に比べ来客数及び売上高ともに下回った。美術・宝飾品等の高額品、紳士・婦人衣料及び雑貨、リビングが苦戦した。ヤングファッションについても前年並みを確保できなかったが、前月に比べると健闘した。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・今まで集客の良かった物産展が、今月は集客に繋がらず苦戦した。相変わらず、高単価商品の動きも鈍いので、来店者数・売上高ともに前年を下回る結果になった。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・相変わらず定価品や高額品の動きは悪く、単価も低い。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・客単価は回復しているが客数の減少が続いている。買物頻度を減らすことでの節約が定着している。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・政局は不安定であるが、来店客数を見ても大きな変動はない。最低限のものを購入する、値段が安い日に集中するという傾向が続いている。
スーパー（財務担当）		来客数の動き	・景気回復の不十分と競合出店の増加により来店客数は回復せず、しばらくこの状態が継続する。	
コンビニ（総務）		来客数の動き	・ゴールデンウィークでは前年を上回ったが、それ以降の落ち込みが激しく、4月同様に前年割れとなった。	
衣料品専門店（経営者）		お客様の様子	・5月は、ゴールデンウィーク期間中、天候に恵まれたことから好調であったが、その後は相変わらず悪く、結局、売上高は前年より1割減少となった。	
衣料品専門店（副店長）		来客数の動き	・来店数は変わらないが、客単価が少しずつ低下している。	
乗用車販売店（従業員）		来客数の動き	・費用をかけて大規模な集客イベントを行ったので、来店数はやや増えたが、販売量にはつながっていない。すでにエコカー減税補助金制度での来店客数・販売量の増加は見込めない。	
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク明けの土日までは販売が好調であったが、それ以降、全然売れなくなり、ゴールデンウィーク中にお金を消費した分の反動でもとの状態に戻っている。		

	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・風船をふくらませて、ある程度ふくらんできているが、中の空気がだんだん抜けているみたい、方向性も何もまるでつかみにくい。	
	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・来客数の動きは変わらない。四国全体ではNHKドラマの影響で伸びているが、道後は伸びておらず全国的な不景気の影響とみられる。旅行消費全般が落ちている。大手旅行代理店の売上も大幅に下落しており、不景気の影響で観光客が増えていない。	
	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・やはり個人消費がなかなか上昇してこない。来客数は減っており、単価の下落も大きいので、まだまだ個人消費に回復がみられない。	
	旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・国内旅行は、今年の同時期に発生した新型インフルエンザの影響がほとんどない状況にもかかわらず、個人旅行の伸びが悪く昨年の販売高をクリアできていない。反面、円高の影響からか海外旅行の方は、需要回復が見受けられる。	
	通信会社（社員）	販売量の動き	・販売量が昨年の同月と比べても、大幅に増えていない。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・昨年同月と同じくゴールデンウィーク以降の来客数が悪い。	
	設計事務所（職員）	競争相手の様子	・この時期は、まだ手持ちの仕事があり、時短もなく、残業が必要なくらいで、ここ数か月間の状況と変わらない。	
	住宅販売会社（従業員）	それ以外	・商談件数は変わっていないが、物件の予算額が、少なめになっている。	
やや悪くなっている	一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・業務店の売上が芳しくない。	
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・近隣の商店街への来客が少なくなっている。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・気温が上昇せず、天候が悪いため夏物が売れない。また、野菜も単価が低下しているため、販売額が伸びていない。	
	家電量販店（営業担当）	来客数の動き	・5月は平日を中心に予想以上に悪く、前年に比べ、6%減少した。3月までの反動ともいえるが、家計の出費も増える時期と重なったため、これだけの減少幅となった。	
	乗用車販売店（役員）	それ以外	・受注数の減少が顕著に見受けられる。しかし、人気ハイブリッド車の受注残により、販売は前年比170%増となり、4月と同様の状況で推移している。	
	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・客数はさらに微減し、競合のなかで安い店を探して動いている様子がある。客単価も更に下落している。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・5月はゴールデンウィークがあったが、高速道路料金引下げでマイカーで観光に来るため、タクシー利用は少なかった。ゴールデンウィークが終わってからもタクシー乗車客は減る一方である。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・利用客の減少が続いている。一回当たりの利用金額も減少傾向である。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・客単価は下落している。また、5月は決算が終わり、総会と役員改選がある企業、会社が多い。総会と役員改選のみで終わり、その後の飲み会、食事会がなくなったと客が言う。	
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・予約状況を見ると、前年や2～3か月前と比較しても非常に悪い。単価も下落している。	
	競艇場（職員）	販売量の動き	・本場のための売上に関して言うと、3か月前と比較し4%増えておりやや好調だった。今月はゴールデンウィークがあったので売上増を期待していたが、前月比2%減少、前年比4%減少と売上は伸び悩んだ。ゴールデンウィーク中の売上も前年比33%減と大きく落ち込んだ。	
	設計事務所（所長）	競争相手の様子	・同業他社の廃業や、業界団体からの離脱がかなり多くあった。	
	悪くなっている			
	企業動向関連	良く なっている	-	-
やや良くなっている		木材木製品製造業（経営者）	取引先の様子	・決算明け、ゴールデンウィーク、季節要因で、5月は前年と比べて若干伸びた。株価が低迷している。円高基調にあるが、住宅着工は顕著に上昇する。

	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・最近は、引き合いや見積が着実に増えている。特に自動車関係の電機・電子部品の化学工場や、ダイオード等の自動化、検査器、製造機の仕事があり、徐々に忙しくなっている。	
	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・民間介護施設の新設が数件受注でき、手持ち工事は前年並みに回復してきた。	
変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・売上が増加しない上に、販売店からは値下げ要請がある。一方、油、パルプ、古紙は値上がりが続いている。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・特に国内向けのユーザーの状況が悪く、価格や支払条件面で厳しい。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・相変わらず、公共、民間とも受注難が続いている。	
	輸送業（統括） 通信業（営業担当）	取引先の様子 それ以外	・取引先の荷物出荷内容に特段変化がない。 ・株価が低下し、個人の余裕資金が減少しているためか、消耗品や衣類を始めとして、安くないと購入しない傾向にある。また商品別に価格を決め、それより安ければ買うという傾向が広がっている。一方で自分へのごほうび・趣味・ペット・食の安全などには高価でも購入するという、消費の二極化が定着している。また、厳しい状態が続いているといった声を各業種の人から聞く機会が多い。	
	通信業（部長）	受注量や販売量の動き	・受注性向はあくまで慎重であり、目に見える効果がなければ動かないという慎重な姿勢が続いている。	
	公認会計士	取引先の様子	・5月の顧客決算の状況、あるいは試算表の状況から判断すると、景気が回復しているとはいえない。まだまだ前年比減収減益の企業が70%程度あり、また、不渡り等も発生していることから、景気が上向きになっているとは判断できない。どちらともいえない状況である。	
やや悪くなっている	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・5月は気候の変動が激しかった。全体的に例年より寒かったため、売行きは悪い。	
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月までは順調であったが、ゴールデンウィーク以降、店頭販売の数字が伸びておらず、小売店は全般的に厳しい様子である。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用 関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	-	-	
	変わらない	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・相変わらずNHK大河ドラマ関連で観光業界は調子が良いものの、一過性であり、その他の業界には全く明るい兆しが見えない。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・増加していた求職者数が2か月連続して低下した。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・製造業での受注量が昨年の10%減少で推移している。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	それ以外	・4月の有効求人倍率は0.55倍で、3か月前より0.04ポイント下回った。
		民間職業紹介機関（所長）	求職者数の動き	・登録者で3月に大学・短大等を卒業した未就職者が昨年と比べて増加している。また、就職はしたが、短期で退職するケースも増えている。とりえず就職したものの、自分がイメージしていた仕事と違うということで退職するケースが多い。
	悪くなっている	-	-	-